

かわさき区の宝物シート

宝物No.	といやばあと		
1-11	問屋場跡		
エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



川崎宿模型(川崎市市民ミュージアム蔵)、手前が高札場



現在の問屋場跡(上)と川崎宿総合案内板

所在地	川崎区砂子1-7-1付近
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-280-7321 (東海道かわさき宿交流館)
FAX	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-280-7314 (東海道かわさき宿交流館)
E-mail	
URL	
交通	京急川崎駅より徒歩5分



基礎情報

■江戸時代、宿場の中心となる最も重要な施設だった問屋場の跡地。今でいう役所にあたり、公用で旅をする人達の便をはかるため人足と伝馬を常備していた。また、幕府の手紙や荷物を次の宿場へ送る飛脚業務や、大名行列の出迎えや宿場業務の監督なども行われ、昼夜交代制で連日多忙を極めたという。天保14年(1843)の『東海道宿村大概帳』によれば、問屋3人、問屋代4人、年寄5人、帳付6人、人馬指11人の総計29人の宿役人が勤めていたとの記録がある。

由来・エピソード

■宝永4年(1707)に田中本陣職を継いだ田中休愚は、六郷渡船権の請負という宿場の財政再建策を提案。これを高く評価した関東郡代・伊奈半左衛門忠順が、本陣職に加えて休愚に兼任させたのが、名主、そして問屋役(問屋場の責任者)であった。八代将軍吉宗の江戸入城の際、1,300頭の馬と18,000人の人足が集められたといわれ、川崎宿は大混乱をきたしたが、無事に事態を収拾できたのは休愚の手腕によるものであった。

■街道の向かい側には、幕府や領主が決めた掟などを木の板に記して立てられる高札場があった。高札場の近くには「惣兵衛本陣」が建っていた。佐藤本陣(上の本陣)と田中本陣(下の本陣)の間に位置していたため、通称「中の本陣」と呼ばれた。江戸後期の享和年間(1801~04)には既に廃業していたものと考えられている。

■川崎宿の中でも最も由緒のある場所として、現在は旧東海道・川崎宿の案内板が設置されている。

補足・その他

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-6)田中本陣跡
- (1-25)佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑
- (32-2)田中休愚